

1. IR区域全体（IR区域全体のコンセプト）

（1）IR施設の名称、所在地及びその概要

IR施設の名称 IR 和歌山（仮称）

所在地 和歌山マリーナシティ（和歌山県和歌山市毛見字馬瀬） ※以下、「マリーナシティ」

- ・1994（平成6）年に竣工した人工島で、IR予定区域は島の南側に位置し、面積は23.61ha
- ・全域整地造成済であるためすぐに着工でき、日本で最初のIRの開業が可能
- ・歴史ある風景が「絶景の宝庫」として日本遺産に認定された風光明媚な和歌浦湾に位置
- ・セーリングのナショナルトレーニングセンターが設置されるなど、関西のマリンレジャーの基地として人気の高い観光地

（2）区域整備計画の意義及び目標

IR区域の整備により、観光経済圏を構築し地域の持続的な成長を実現するためには、従来型の大規模施設を創るのみではなく、今後益々進展するグローバル化・オンライン化の潮流を踏まえ、現地ではしかできない「体験」を通じた「感動」を提供し、来訪者の心に強く動機付けをする質の高い環境の整備が必須である。

和歌山県には、世界遺産「高野山・熊野」のみならず、神話の舞台となった重要な歴史資産や、日本三古湯「白浜温泉」をはじめとする温泉資源、日本三大火祭りの1つ「那智の扇祭り」などの伝統行事、醤油・味噌・鯉節発祥地としての食文化など、都市部では味わうことが出来ない四季折々の魅力をもつ観光資源が息づいている。

また、訪日外国人旅行者の玄関口である関西国際空港へのアクセスも充実しており、世界中から観光客を集められる新たな観光経済圏としてのポテンシャルを有する地である。

これらの和歌山県が誇る魅力・ポテンシャルを十分に発揮し、日本初のIRを整備することで、地域経済の振興や地方創生をリードし、我が国がめざす観光戦略及び国際競争力の高い魅力ある滞在型観光の早期実現をめざすことが和歌山県において日本型IRを整備する意義である。

加えて、和歌山IRの成功には地域の持続的成長が前提条件であることから、IRを基軸に、これまでにない規模のヒト・モノ・投資を呼び込み地域経済を繁栄させるとともに、和歌山県の美しい自然や環境と共生する安心・安全のまちづくりを推進し、住民にも観光客にも愛される、住んでよし訪れてよしの地域を創造する。

また、「地方型IRのロールモデル」としてIRによる地方創生のベストプラクティスを作り上げることで、地方を含めた我が国全体の観光・経済成長へと導く地に発展することを更なる意義とする。

目標1 MICE 戦略

地方型MICEのベストプラクティスを作り上げ、日本各地域に横展開可能とすることで、地方創生・地方都市の魅力向上に繋げる

- 従来型とは一線を画す世界最先端のスマートMICE施設を整備することにより、リゾート型IRならではのワークライフバランスに富んだ体験を提供し、我が国のMICE開催地としてのプレゼンス向上に寄与

目標2 世界中 から 集客する

外国人旅行者数・消費額という「量」の貢献はもちろん、顧客満足度を高め日本のファンを生み出すことで来訪の好循環を作り出し、真なる我が国の観光戦略に寄与

- 和歌山の多種多様な観光資源を存分に生かした体験を通じて、日本の魅力をより広く・深く発信し、三大都市圏以外にも世界中から観光客が集まる地域を新たに生み出す

目標3 日本各地 へ 送客する

新たな観光街道を形成することで、IR整備の効果を広域的に波及させる

- IRでの「体験」から、IR施設外での新たな「体験」へ動機付けを行うことで、IR来訪者を日本各地に送り出し、これまで認知が遅れていた魅力あふれる地方部と世界をつなぐ観光ゲートウェイを形成する

1. IR区域全体（IR区域全体のコンセプト）

（3）IR区域全体のコンセプトと策定根拠

テーマ：「和歌山の自然資源」と「世界最先端のテクノロジー」の融合

● コンセプト① Sports & Wellness

滞在体験を通じて心身ともにエネルギーをチャージし、より自分が好きになるウェルビーイング観光を推進するIR

● コンセプト② Undiscovered Japan

世界にまだ知られていない日本の魅力を広めて新たな観光街道を創り、地方創生を推進するIR

● コンセプト③ Sustainability

最先端技術を活用した利便性と循環型社会への貢献の両立を叶え、地域・人とともに持続的な成長を続けるIR

〈策定根拠（比較対象となる諸外国の事例）〉

Resort World Sentosa（シンガポール）の成功

- 海に面したマリンリゾート型IR
- 近距離の都市型IR(マリーナベイサンズ)と相乗効果を発揮
- ゼロベースの人工島から新たなDestinationを創造
- VIPの長期滞在 + ファミリー層向けのターゲティングに成功



和歌山IRの独自性

- 精神性に訴求するウェルネス体験
- 広域への送客、地方創生の実現
- サステナビリティを掲げる先進IRとしてブランディング

（4）IR事業の概要

IR施設の在り方

- IRを構成する各施設が各々の機能を果たすことは勿論、IR区域全体のコンセプトを反映させた一体的な運営により相乗効果を生み出し、これまでにないスケール・クオリティの複合施設を実現する。

IR区域の在り方

- IR区域内の土地及び施設は全てIR事業者が所有する。
- IR区域を単一の区画として整備・設置するとともに、建築基準法・港湾法・都市計画法等に基づく土地利用規制と適合するよう、適切な手続きに基づき当該区域を一体的に管理する。

IR事業の在り方

- カジノ事業の収益を十分に活用してIR区域の魅力の向上を図り、世界中から多くの観光客を引き付ける国際競争力を維持向上していく他、和歌山県が行う施策への協力を通じて、IR事業に求められる公益性を達成する。
- カジノ事業の免許を受けるまでに進める準備の段階から反社会的勢力の排除をはじめとするコンプライアンス確保や不正対策に着実に取り組む。
- カジノを起因とする依存症の「発症予防」、「早期発見」、そのための「社内規範の確立」、「従業員教育の徹底」などの対策を講じる他、犯罪防止・治安維持・青少年の健全育成に取り組み、カジノ施設の設置及び運営に伴う有害な影響を徹底して排除する。

IR開業：2027（令和9）年秋頃

施設		概要
MICE施設	国際会議場	大会議場 6,000人以上収容 中小会議室 6,000人以上収容
	展示等施設	国内初のエクステンション型アリーナ 約20,000㎡以上
魅力増進施設		<ul style="list-style-type: none"> ● 日本の伝統文化に資する施設 ● 日本の精神性を訴求する施設 ● 温浴体験施設
送客施設		<ul style="list-style-type: none"> ● エキジビジョンギャラリー ● ツアーデスク ● バスターミナル
宿泊施設		客室数 2,500室以上 スイートルームの割合 20%以上
来訪及び滞在促進施設		プールドーム、キッズ広場、ナイトクラブ、eスポーツセンター、超人競技センター、先端医療センター、屋上農園 など
カジノ施設		専らカジノ行為の用に供される部分はIR施設の床面積合計の3%以内

1. IR区域全体（IR区域内の建築物のデザイン、IR施設の規模）

（1）IR区域内の建築物の外観・内装

施設全景



今後の計画進捗に伴い変更する可能性があります

IR区域内の建築物の外観

- 和歌山が誇る日本古来からの自然美や文化、精神性等を来訪者に強く感じてもらうために、この地が有する文化や歴史的背景を踏まえ、和歌山IRの建築デザインコンセプトを「和歌浦にそびえ立つ現代の鳥居」と設定
- この地に集う来訪者が、ここからいまだ世界に知られていない日本の魅力を感じ、新たな観光街道を巡る、いわばそのゲート性を表現
- 風光明媚な景勝地である和歌浦湾に対し、大きくウイングを広げる本棟の建築形態は、そのきらびやかな外観デザインや周辺の景色を映しこむガラスファサードも相まって、オーシャンフロントな周辺景観とは対比的かつシンボリックな景観を形成
- 区域内各所のライトアップにより、一体的な特徴ある夜間景観を形成

IR施設の内装

- 各施設の内装は、そのどれもが機能に即しつつ印象的なデザインを施すことにより、この地に新たなDestinationを創造
- 本棟エントランス付近の内部空間は、迫力ある三層吹き抜けに特徴的なインテリアデザインを施し、訪れる方々の記憶に強く残る印象的な空間を形成
- 本棟とMICE棟をつなぐ通路は、デジタルストリートとしてこのIR施設の中心動線を形成するとともに、この地を訪れる方々にここでしか味わえない印象的な空間体験を提供



今後の計画進捗に伴い変更する可能性があります

1. IR区域全体（IR区域内の建築物のデザイン、IR施設の規模）

（2）IR区域内の建築物の配置



本棟



MICE棟
立体駐車場棟

今後の計画進捗に伴い変更する可能性があります



IR区域内の建築物の配置

- ・敷地北側の道路周辺に駐車場（立体・平置）及び南側に主要建物を配置
- ・敷地東側にMICE棟（国際会議場施設及び展示等施設）、西側に本棟（魅力増進施設・宿泊施設・来訪及び滞在促進施設・カジノ施設等）を配置
- ・本棟とMICE棟とは1階フロアで接続され、その間に送客施設（バスターミナル等）を配置
- ・本棟南側には来訪及び滞在促進施設の一部を形成するプールドームを配置
- ・敷地西側（現ポルトヨーロッパ）エリアについては、公園を整備

1. IR区域全体（IR区域内の建築物のデザイン、IR施設の規模）

（3）IR区域内の面積

●IR区域の面積：23.61ha

（4）IR施設の床面積の合計及び内訳

IR施設を構成する各施設の計画床面積は下表のとおり。

IR整備法第2条の区分	施設名称	延床面積	暫定計画値
国際会議場施設 (1項1号)	国際会議場施設	62,500㎡～74,500㎡	68,700㎡
展示等施設 (1項2号)	展示等施設	61,500㎡～73,500㎡	67,500㎡
魅力増進施設 (1項3号)	・日本の伝統文化に資する施設 ・日本の精神性を訴求する施設 ・温浴体験施設	9,900㎡～10,900㎡	10,500㎡
送客施設 (1項4号)	送客施設	1,650㎡～1,950㎡	1,800㎡
宿泊施設 (1項5号)	シーザーズ・パレス	275,000㎡～335,000㎡	312,000㎡
来訪及び滞在促進施設 (1項6号)	・プールドーム ・eスポーツセンター ・先端医療センター など	175,000㎡～205,000㎡	190,000㎡
カジノ施設 (10項)	カジノ施設	45,000㎡～50,000㎡	46,500㎡
	合計	630,550㎡～750,850㎡	697,000㎡

※設計・施工段階の計画調整により、IR整備法など各種法令に適合する範囲内で変更する場合がある。

（5）その他スケールに関する事項

各施設の計画収容人員は下表のとおり。

施設名称	利用シーン 収容人員	消防法 収容人員	施設名称	利用シーン 収容人員	消防法 収容人員
国際会議場施設	24,500人	24,500人	宿泊施設	12,250人	12,250人
展示等施設	12,230人	27,558人	来訪及び 滞在促進施設	3,000人	3,000人
魅力増進施設	1,750人	1,750人	カジノ施設	9,680人	9,680人
送客施設	1,800人	1,800人	合計	65,210人	80,538人

1. IR区域全体（ユニバーサルデザイン、環境負荷低減、多文化共生、フェアトレード）

（1）ユニバーサルデザイン・多文化共生

多言語対応はもとより、海外からの様々な文化圏からの来訪者対応、「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー法）」、「和歌山県福祉のまちづくり条例」のみならずユニバーサルデザイン7原則をはじめとする国際的な基準も取り入れ、先進的なユニバーサルデザインを取り入れたIR施設を実現する。

ボーダーレスの実現

環境のバリア（ハード面）、心/意識のバリア（コミュニケーション）、情報のバリア（平等な情報提供）を主眼に、来場される全ての人々にとって年齢・障害・性別・人種・宗教・趣味嗜好等の境界（ボーダー）のない空間を実現すべく、世界水準の施設設備とサービス（ダイバーシティマネジメント）を通じて、誰もがストレスなく安全に安心して使いやすい快適な滞在・観光体験を提供する。

来訪者への対応	<ul style="list-style-type: none"> ICT、AIを活用した100カ国語を超える多言語対応や手話・音声による対応 宗教上の理由やアレルギー情報、障害情報などの事前登録システムの導入 性別を問わず様々なニーズに対応したイベント・サービスの提供及び機能別トイレ等の設置 礼拝スペースの確保、多宗教対応の食の提供（コーシャー、ハラル、ヴィーガン、ラマダン等） バリアフリーの動線計画、自動運転のモビリティ・車いす等を活用した負荷の小さい移動提供 ベビーカーでも利用しやすい動線設計、マルチリンガル対応の託児所の設置 など
従業員への対応	<ul style="list-style-type: none"> 外国人等の多種多様な人材雇用、リタイア後人員の再雇用 経営層・従業員等の女性登用率ともに50%以上、障害者雇用率7.4%以上をめざす 宗教儀式に対応した職場づくりや服装規定、外国人従業員の日本での生活対応支援 託児施設の設置、従業員向けの寮や通勤バスの整備 など

（2）環境負荷低減

国際社会がめざす2050（令和32）年カーボンニュートラルの実現と持続可能な施設形成を図るとともに、周辺地域への環境負荷をできるだけ少なくする施設整備と運営を行い、SDGsへ貢献する。

施設整備時における主な取組	<ul style="list-style-type: none"> 建設資材の再利用や再資源化しやすい建設資材の積極的な選定による廃棄物抑制 工事車両・施設関連車両への低公害車の活用、排出ガス対策建設機械の採用
施設運営時における主な取組	<ul style="list-style-type: none"> 施設内各所や施設屋上への大規模太陽光発電の設置運用並びにその他の再生可能エネルギーの導入検討 非化石証書を活用した燃料の調達（電力・都市ガス等） 環境負荷の少ないエネルギー資源及び製品並びに効率的な設備機器の活用 グリーンスローモビリティ（EV・自動運転等）の活用 施設内消費エネルギー、排出廃棄物の処理、処分ルールの厳格化及び排出量・ルート等を一元管理システムを活用し『現状の見える化』を図り環境負荷低減に寄与

（3）フェアトレード

コンプライアンスを厳守し、人、社会、環境、地域に配慮したフェアトレードを実現する。

- 取引先に対しフェアトレードに関する方針を提示し、コンプライアンスを厳守した業者選定及び入札体制を構築
- エシカル消費理念に準じ、「環境（環境負荷低減寄与製品）」、「社会（フェアトレード商品）」、「地域（地産地消）」に配慮し、SDGsにおける「使う責任」を実践
- 地域社会や日本社会の長期的で健全な発展を見据えた持続可能性の高い企業との取引を優先
- 内部監査体制や専門知識を有する調査会社との事前調査体制を整備し、内部監査により適切な取引を実現